

日本維新の会

高校教育改革に関する提言



金子参院議員(左から2人目)と松本大臣(同3人目)ら

日本維新の会の金子道仁参議院議員らが11月12日、松本洋平文部科学大臣と面会し、国が今年度中の策定を目指す「高校教育改革に関するグランドデザイン2040(仮称)」について提言を行った。

提言では、地方において教育機会の減少があるとし、地方の子どもを取り残さないこと、また、主體的に学ぶ自立した高校生の育成を基本的な考え方とした。具体的な改革方針として▽多様で質の高い学びの選択肢の拡大▽小規模校改革▽生徒自ら学びを考え選択できる幅の拡大――等を盛り込むよう求めている。

面会後に取材に応じた金子議員は「(提言について)大臣からも同意が得られた。文科省が本日タスクフォースを立ち上げ、グランドデザインだけでなく、高等教育改革などに関する提言書をまとめる作業を進めるということだが、我々も計画の策定に向け、力を合わせていきたい」と述べた。



「人材育成改革ビジョン」策定に向け意欲を示す松本大臣(中央)

会合冒頭、松本大臣があいさつし、「我が省が担う教育、科学技術、文化、スポーツいずれも未来に向けた成長投資であり、その基盤となるのが人材だ」と強調。その上で「高校、大学・大学院を通じて改革を行い、産業イノベーション人材を戦略的に育成することで強い経済を実現し、次世代の育成のための原資を生み出すという人への投資の好循環を実現する必要がある。関係省庁と連携し、『高校教育改革グランドデザイン』をはじめ、具体的な方策を早急にまとめたい」と語った。

文部科学省は11月12日、「人材育成システム改革推進タスクフォース」の初会合を開いた。松本洋平文部科学大臣を主査に、中村裕之・小林茂樹両副大臣を副主査とし、清水真人・福田かおる両大臣政務官や事務次官、文部科学審議官、各局長らを構成員としている。今後、関係団体との意見交換を行うなどして、高校から大学・大学院にかかる一貫通貫での人材育成方策について、来年3月までに取りまとめる考えだ。

文部科学大臣を主査に 人材育成システム改革推進タスクフォース始動

11月4日に設置された政府の日本成長戦略本部で、「未来成長分野に挑戦するための大学改革、高専等の職業教育充実」について高市首相より松本大臣に取りまとめの指示が出されていた。また、高校教育改革を推し進めることが政党内で合意されているとともに、高等教育については中教審の「知の総和向上」答申(今年2月)を踏まえた大学・大学院の教育の質向上・保証や規模の適正化、地域大学の振興に向けた取り組みの具体化、研究力の強化が進められている。

来年度から始まる第7期科学技術・イノベーション基本計画の策定を見据え、「新技術立国」を担う科学技術人材育成の強化や、産学が連携したり・スキリング・エコシステムの構築、我が国の「勝ち筋」になりうる文化およびスポーツ等のソフトパワーの強化に向けた成長投資の充実も重要。これらを踏まえ、タスクフォースでは、高校から大学・大学院までを通じた人材育成に関する課題を検討し、「人材育成改革ビジョン(仮称)」を取りまとめるとしている。